

2015年 「安」  
歴史と生命

浅野良裕

戦後70年の節目の年、2015年が暮れようとしています。太平洋戦争開始から74年、日中戦争から78年、満州事変から84年。1945年の終戦から見ると、78年前の1867年は明治維新の年でした。したがってこの70～80年を振り返るためには、その前の70～80年以前を振り返ることが参考になるかもしれません。人はあまりに身近なことは客観的に認識しにくく、少し離れた場所から見たほうが理解しやすいことがあるからです。

二百数十年、平和が続いた江戸時代から、近代化、工業化、戦争の70数年。そして戦後の平和の時代の高度成長から停滞の時代へ。こう考えてみると、江戸時代や明治維新はそんなに遠い過去のことでもない気がしてきます。我々の親や祖父母、それ以前の人達がどのような思いをして生きてきたのかに思いをはせることが出来るのでしょうか？

70数年といえば、もの心ついてから今の平均寿命を超える期間であり、比較的長寿の人が2人その直接的体験を語り継げば、時代を継承できることになります。今、長命の人に戦前からのことや、その人が聞いてきた幕末からの出来事の体験談を聞けるかもしれません。2人共歴史から学び、継承していこうという意識を持っていることが必要ですが。

しかし翻って我々が親や祖父母のことをどのくらい知っているかと考えると寂しいものがあります。

大正ロマンの時代から昭和へ、そして戦争への歩みから大陸での戦争、太平洋戦争から本土の戦場化、戦後の大転換、物資欠乏から高度成長、バブル崩壊から低迷期へ。このような時代を生きてきた人々が、何を体験し、どのように思い、感じ、考えてきたのか。驚くほど知らない人が多いのではないのでしょうか。

お互い生きるのに精一杯でそんな余裕がなかった？ 知ろうとしなかった、語り継ごうと思わなかった？ 思い出したくなかった？ 人は自分に都合が良いことは語りますが、都合が悪いことは忘れてたり、語らなかつたり、修正しようとするものかもしれません。また公教育の歴史においても、現代史はあまり教えられず、また教科書の記述も事実の羅列はあっても、事実の発生原因や因果関係については乏しいものがあります。

ところで今年の漢字は「安」が選ばれました。安保法制が争われ、気候変動や自然災害、テロ・戦争の危機、事故や企業の不祥事、少子高齢化、格差、財政危機等の問題を抱え、安心、安全、安らぎというより、先行きの不安感から「安」が選ばれたようです。ちなみに2位が「爆」、3位が「戦」ですので、いかに不安定な世相が現れているかと心配になります。

「アン」はあいうえお51音で最初と最後の音です。αとω。生命の最初から最後まで全てと言える重要な文字だといえましょう。「安」が選ばれたのは無意識的にも生命の危機を感じているのかもしれません。このような時にこそ、本当の意味で歴史から学び、歴史を動かしてきた本質に辿り着く努力が必要ではないのでしょうか。